

授業改善書

| | |
|-----|-------|
| 科目名 | 家族心理学 |
| 担当者 | 高橋誠 |

授業の概要

本授業では、家族をどうとらえるか、これまでの研究知見による見方を学び、家族心理学への理解を進めた。また、家族がどのように生まれ、育ち、変遷していくのか、さらに各段階にはどのような臨床的問題が生じるのかという家族ライフサイクルとしての視点からも理解を深め、支援のあり方についても学ぶことを目的とした。

授業の問題点

予習復習や質問したか、ノートをとったという項目が低い。ただし毎回レジュメを配布しているため、ノートはレジュメに行っている可能性もある。予習は不要だが、復習を行っていない学生が見られる。

学生の授業満足度

「得るものがあつたか」、「授業に満足できたか」4.77、4.74であつた。満足度を高めるために家族心理や家族療法に関する体験談を盛り込んだ授業を今後も行いたい。

その他、授業の感想や要望は毎回ペーパーに記入してもらい、次回授業の冒頭で記入内容についてコメントを行ってきた。学生の意見を踏まえた授業を今後も継続する。

授業改善の課題と方策

学生からの自由な発言を作る雰囲気作りができるように、小グループのディスカッションや発言を促進するためのワークの導入など、改善を行いたい。予習復習に関して、家族の中で生じている様々な心理学的現象に関して、授業内で扱うことはあつたが、それを宿題として課したことはなかつた。今後は、家族内で生じている諸現象について調べてもらうなど、予習復習できる課題を提示するように努めたい。

その他

特になし。

授業改善書

| | |
|-----|---------|
| 科目名 | 発達臨床心理学 |
| 担当者 | 高橋誠 |

授業の概要

本授業では、臨床心理学とその隣接領域およびカウンセリングの理論と技法を概観し、同時にカウンセリングの実践方法について体験的に学び、援助・相談を行うための基本的なカウンセリングの知識と技術を学び、子どもの発達を適切に支援するための基礎力を高めることを目的とした。

授業の問題点

授業アンケートより、予習復習の得点が比較的低かった。

また、本授業はピアヘルパー資格試験受験のための履修要件となる授業であり、グループワークやロールプレイを数多く行い、ピアヘルパーとして実践的な能力を高めることが必須であると考えた。一方、グループでのワークに苦手意識や抵抗感を覚える学生への配慮が不十分だと反省した。

学生の授業満足度

「授業が分かりやすく、楽しかった。」との意見があった。ピアヘルパーの教科書の専門用語やワークの実施方法については適宜分かりやすい言葉を選んで指導をしたことが奏功したと考えられる。

その他、授業の感想や要望は毎回ペーパーに記入してもらい、感想に対してコメントを行った。

授業改善の課題と方策

授業改善に向けて、脱落者をどうするかについての検討や改善のための方策が必要と思われる。だが、ピアヘルパーの資格取得のための授業という性質上、ワークやロールプレイを行うことは避けられない。よって、ワークなどに参加することへ抵抗感がある学生が少しでも加わりやすくできるような工夫が必要となると考えられる。

今回はランダムでのグループ化を行ったが、初めはなじみある学生通しのペアなどから初め、全体が抵抗なく交わるようになるなど、工夫を行っていきたい。

その他

特になし。